

信楽園病院だより

第75号 平成19年6月1日 発行

〒950-2087 新潟市西区新通2099 Tel 025-260-8200 FAX 025-260-8199

E-mail main@shinrakuen.com ホームページアドレス

www.shinrakuen.com



慢性腎臓病(CKD)について

副院長 酒井 信治

日本人の5人に1人が慢性腎臓病(CKD)であると予想され、国民病とも言われる様になっています。国内には約2000万人に達する多くの慢性腎臓病患者がおります。

〈慢性腎臓病とは〉

慢性腎臓病の診断は腎臓の働きが正常腎機能の60%未満であること、及び、蛋白尿や血尿などの尿異常が3ヶ月以上続くことと定義されています。慢性腎臓病は腎機能の低下状態によって病期が5期に分類されています。第4期(腎不全期)に至ると透析療法導入が必要となります。

〈早期発見のために〉

慢性腎臓病が困るのは初期には自覚症状が無いことです。むくみや吐き気などの自覚症状が出現したら腎臓機能はかなり低下していることとなります。普段から健診などで尿検査を受けて蛋白尿や血尿が検出されたら、必ず専門医で精密検査を受けましょう。

慢性腎臓病になると心筋梗塞、心不全、脳卒中などを起こしやすくなります。初期の段階での早期発見と早期治療が大切です。

〈予防と治療について〉

予防法としては食生活と適度な運動で肥満を防止します。塩分摂取を抑え高血圧を予防します。また、暴飲暴食、過労、喫煙をせず、十分な睡眠と休養をとることに心掛けます。治療法には塩分・蛋白制限などの食事療法、降圧剤や利尿剤などの薬物療法があります。腎臓が悪くなりかけていても、その原因疾患を十分に治療し、腎臓を保護する治療を受けることで腎臓機能を保つことができます。

